

ショートストーリー

「アーニャから お友達への 手紙」

ここでしか読めない書き下ろしショートストーリー。
アーニャが故郷のお友だちに声のお便りを出してい
ますが、その相手とは……？



「あー、テスト、テスト。こちらアーニャです。ど
うですか？ ニ……あ、違った！ お、お友達。
私の声、ちゃんと録音されてますか？ 今回は
ICレコーダーで、声の手紙に挑戦してみました。
うう、こんな小さい機械でホントに入るか不安
です」
あいかわらず間抜けでいらつく声ね。
封書から出てきたICレコーダーから流れた声
は、私にいらつきを……どこか安らぐいらつき
を感じさせた。
「仕事姿の写真も入れておきました。リオ先輩
がデジカメで撮ってくれたんですよ」
同封された写真には、金髪碧眼の愛らしい少女
ディーラーの姿が映っていた。髪を両サイドに
振り分けたツインテールは、幼い頃に私の真似
をして以来、ずっと変えずにきたものだ。
「えっと、ラスベガスはロシアより、かなり暖か
いです。そのせいか、私のディーラー修行もか
なり順調です。まだ、あまり物も壊してないん
ですよ！」
ふん、あいかわらず物を壊しているのね。あな
たの先祖も、計算でドジを演出しているようで、

芯のところはしっかり真性のドジだったもの。
これは遺伝ということかしら。
ボイスレターを送ってきたアーニャ・ヘルシン
グは、かつて私と行動をとにした、あのメイ
ドの子孫にあたる娘だ。当時、ヘルシング家の
勇者が、姫君でなく彼女の方を選んだのには私
も驚いたものだった。
アーニャは、いわゆる《抜けている》子なのだけ
れど、その《抜けっぷり》が尋常ではなくて、人
を極度に油断させる不思議な力がある。気がつ
けば、私も不死の秘密と数百年前の冒険譚を明
かしてしまっていた。そんな彼女がわざわざ「声
の手紙」を送ってきてくれたことは正直嬉しい。
「で、ですね。ニー……じゃない。お友達！ 前
も手紙に書きましたが、リンダさんと二人で
豪華客船カジノスパイラル号に招待されたっ
て話です。お友達がすごく反対してた件です
……」
反対したのは、海の上ではヴァンパイアである
私の力が極端に制限されてしまうからだ。
ヘルシング家の最後の一人であるアーニャを狙
う連中に、襲われれば苦戦は必至だ。

「あの……伝書コウモリさんが、すぐに返事を持
ってきてくれたんで、お友達の心配は理解し
てるんですけど。それでも、私、やっぱりカジ
ノ船に乗りたいと思うんです」
何ですって？ 思わず腰が浮いた。
「これはチャンスなんです。リオ先輩も姉妹船
で活躍したんだし……。私たちも頑張らなきゃ
って、リンダさんと新米ディーラー同士、挑戦
しようって決めたんです。」
私は親指の爪を噛んで《リンダ》のことを考え
る。最近、アーニャの手紙に頻繁に登場する《リ
ンダ》はディーラーロボットだ。最初はどうせ、
マネキンに毛が生えた程度のもんだろうと高を
くくっていたが、届く手紙を読むにつれ、人間
に近い高度な知能と自律性を持っているとわか
って不安になった。
アーニャは最近、この《リンダ》と狎れ合いが過
ぎる。
今回も「リンダさんも守ってくれるっていい
ますし」なんて軽い手紙が届いたので、厳しく
突き放した返事をしたのだ。
アーニャは何も分かってない。戦闘ロボットで

もないのに、鉄板を紙のように切り裂く狼男の
爪に対抗できるって言うの？ せめて自分を守
れるように《二〇〇〇年式》を使いこなせるよう
になっておけて私が何度言っても聞かなか
くせに！
「あの、リンダさんに相談したら、お友達にはち
ゃんと説明した方がいいって言われて。声の手
紙にした方が誤解がないんじゃないかってアド
バイスしてもらいました」
《リンダ》に相談してボイスレターにしたですっ
て？！ 名状しがたい感情に襲われた私に更に
追い打ちがかった。
「えへへ、ICレコーダーも、実は一度リンダさん
にプレゼントしたものなんです。リンダさん、
メモリ不足で、なんでも3分でパンパン忘れち
やうから。でも、この、レコーダーのメモリは
リンダさんには使えないんですよ。私って相
変わらずドジですよ」
羞恥で、耳が熱くなるのを感じた。なんて屈辱。
数百年の時を生きたこの私が、ガラタロボッ
トが不要だと言ったICレコーダーを有り難がっ
ていたなんて！ だから人間なんか気に許し
ちゃいけないのに！
思わずレコーダーを床に叩きつけようとした時
に、その声は響いた。
「会いたいです」
……心がこもった声だった。
「だって、私が、ディーラーになる夢を叶えられ
たのは、お友達のおかげなんですから」
東欧からロシアに逃れてきたヘルシング家の末
裔。勇者なんかじゃなくカジノディーラーにな
りたい、なんて夢をきいたのは、この子が私よ
りもずっと小さい時だった。
「会って……私の夢がかなった姿をみてもらい
たいです。そして、私の仕事仲間や、リンダさ
んにも会ってみたいです」
まだ《リンダ》にこだわるかとカッとなった私
は、信じられない言葉を聞いた。
「だって、リンダさんなら……ずっと長い時が
過ぎて、私が死んじゃっていても、お
友達と一緒にいられるんですよ。リンダさんも
「友達の友達だから」って一生懸命覚えてくれ
て、もうお友達の名前は3分たっても忘れない
んですよ」



悠久の時を生きる少女——ニーナ

なんて思い……これだから人間を信じるのは
……。
やめられないのだから。
アーニャが成長して連中にマークされはじめた
今となっては、必要以上に距離をあけたり、私
の名前を口に出すのを禁じたりするのはもう無
意味だろう。
むしろ早く、王家の子孫とともにアーニャと合
流した方がいいのかもしれない。
そう、決断と荷造りは早い方がいい。
私は、腰に手をあて、「会いたいです」を繰り返
すICレコーダーに向かって宣言した。
「ふん、会えるわよ。ニーナ・ザ・ヴァンプが
すぐに会いに行くわ！」



アーニャとニーナの関係とは……？

アーニャのお友達のニーナ。彼女は一体何者なの
か？ 実は彼女は「十字架」シリーズの登場人物。か
つて東欧のある城にいたドラキュラの娘なのだ。そ
してアーニャは、ニーナに代わってドラキュラのこ
ピー体を倒した聖騎士の末裔——ヘルシング家の血
筋を引く者である。不死のニーナはこの一族をすっ
と見守ってきたというわけだ。なお、作中に出てく
る《二〇〇〇年式》とは吸血鬼退治の鎧の最新バージ
ョンと思われる。それにしてもアーニャが何者かに狙
われているとか、ニーナがやってくるとか、その後が
気になるストーリーなのだ。



ニーナ

ドラキュラの娘。
各地で封印され
た父のこピー体
を始末するのが
使命だった。不
老不死。性格は、
数百年にも及ぶ
筋金入りのツン
デレ。



エミリ

敬愛するセーラ
のため、ニーナ
に託された鎧を
着て吸血鬼と
戦ったメイドさ
ん。その後、聖
騎士と結婚した
らしい。



セーラ

お城で囚われて
いたお姫様。聖
騎士（アーニャ
のご先祖）に助
けられる。天然
ボケだが吸血鬼
を封印する力を持
つ。